



# 正四女、 壽可延命

ホチキス 20周年記念公演第4弾  
2017/2018 あうるすぽっとヨイアツゴ公演シリーズ

## 妻と俺の TSUMARANAI GOKUDOTACHI 極道たち

脚本・演出 米山和仁

2018年1月25日(木)~2月4日(日)

会場: あうるすぽっと (豊島区立舞台芸術交流センター)



ホチキス



# 妻らない 幸せを呼ぶ任侠活劇

TSUMARANAI GOKUDOTACHI

# 極道たち

【STORY】舞台は港町。権藤良子は、任侠一家「権藤組」組長の妻。しかし夫が病死したため女組長として「権藤組」をきっていた。良子の古くからの友人、野菊あけみの運営するスナック「スナックあけみ」がひよんな事から潰れる寸前に追いやられてしまう。良子は、権藤組組員を従えて「スナックあけみ」の経営再建に乗り出す。組員の一人が、婚活支援事業に多額の助成金が出る事を発見。架空の結婚相談所を設立し、助成金をだまし取る作戦を思いつくのだが、良子は本当に結婚相談所を開くと言い出す。こうして、極道の妻が運営する結婚相談所が動き出す。面倒な依頼主。権藤組のライバル組織「梅沢組」の陰謀。暗躍する結婚詐欺師に港町の猫事情などが絡み合う。良子は、そして権藤組はこの最大の危機を乗り越える事ができるのか!!

脚本・演出 米山和仁 2018年1月25日(木)～2月4日(日)

出演



【スタッフ】脚本・演出：米山和仁 / 舞台監督：棚瀬 巧 / 照明：岡部将之(LICHTER) / 音響：田島誠治(Soundmimick) / 美術：泉兵 / 衣装：タニノミコ(ホチキス) / 衣装進行：佐久間のみ / ヘアメイク：黒田はるな / アクソフ監修：奥住英明 / 水引制作：小玉久仁子 / 宣伝美術：戸川健司(Creators Group MAD) / 写真：佐藤孝仁(BEAM×10) / 作曲：北方寛文 / 演出助手：大久保 遼 / 制作：藤田由久(リット) / 制作助手：安達咲里 / 共催：あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団) / 企画・制作：ホチキス

■ライブスケジュール (全13ステージ) ※客席は開演30分前より開場いたします。

1/25	26	27	28	29	30	31	2/1	2	3	4
THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
		14:00	14:00		休演日		14:00	14:00	14:00	
19:00	19:00	19:00		19:00		19:00	19:00	19:00	19:00	

■チケット料金 (全席指定・税込)

スーパープレミアム 10,000円  
(前方エリア座、特典グッズ付 枚数制限あり)

一般 | 前売・当日共 5,500円

学生 | 前売・当日共 2,500円  
(観劇時に身分証明持参)

■チケット一般発売日 2017年12月2日(土)

- 劇団ウェブサイト→<http://www.hotchkiss.jp/next.html>
- としまチケットセンター  
WEB予約→<http://www.owlspot.jp/> 電話予約→03-5391-0516  
電話：窓口10:00～19:00(休館日12/26～1/4を除く)
- チケットぴあ(ポコード483-38)  
WEB予約→<http://t.pla.jp> 電話予約→0570-02-9999
- Confetti(カフェティ)  
WEB予約→<https://www.confetti-web.com>  
電話予約→カフェティチケットセンター 0120-240-540  
※受付時間 平日10:00～18:00

(注意事項)  
※全席指定ですが開演時間を過ぎますと本来の席にご案内できない場合がございます。※未成年者はご入場いただけません。  
※車椅子での観劇については、一般発売日より、公演間問い合わせ電話番号(080-5489-7854:パレット)にて承ります。(高座に限りがあります)

会場：あうるすぽっと  
(豊島区立舞台芸術交流センター)



〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-5-2 ライズアリーナビル2F  
TEL: 03-5391-0751 HP: <http://www.owlspot.jp>

◎東京メトロ有楽町線「東池袋駅」6・7番出口より直結  
◎JR他「池袋駅」東口よりグリーン大通り直進 徒歩10分  
◎都電荒川線「東池袋四丁目駅」より徒歩2分

ヨネ話「家族」——人類は「社会性」という戦略で生き抜いてきた種族である。そんな記事を読んだことがある。生存競争激しい自然界の中、たいして力のない人類が生き延びるために身につけた知恵。弱肉強食な中で、弱い者でもちやんと生きて、子孫を残していけるよう、「社会」を作る事でここまで繁栄してきた。私は、「社会」の最小単位は「家族」だと思っている。父がいて、母がいて、子供がいるいわゆる「家族」もあれば、父のような存在がいて、母のような存在がいて、子供のような子がいて、いわゆる一家と呼ばれるような「家族」もある。家族の面々の中には、強い奴もいれば弱い奴もいる。する賢い奴もいれば真面目な奴もいる。でも、その個性が助け合って生きていく。だからこうして繁栄できたし、まことこれから生きていくのだから。家族だからと言って、幸せな事ばかりじゃない。死んだり、増えたり、喧嘩したり、出ていったり、お金が困ったり、やっかいな事件に巻き込まれたり、でもそれらが家族の絆を強くし、今を豊かにする。劇団もまた家族である。ホチキスという一家も、メンバーが増えたり、減ったり、喧嘩したり、付き合ったり、別れたり、結婚したり、離婚したり、音信不通になったり、えっちらおちちら20年続けてきた。でもその年月培った絆が、この弱肉強食のエンタメ世界の中で、弱者でも生きぬく武器となった。ホチキス結成20周年記念公演の最後を飾るのは、「婚活」をテーマにしながらも、「家族」を描いた、今の劇団の集大成の作品となるだろう。

ホチキス代表 米山和仁

ホチキスとは、  
笑いとケレフ餅とトリックを駆使し、  
コメディ・SF・ミュージカル、  
そして時代劇まで、  
幅広い作風で観客を魅了する  
エンターテインメント作品を  
作り続ける劇団。  
2017年、結成から20年を迎え、  
ますます活動の幅を広げて参ります。

